

報道関係者 各位

2020年12月1日
国立成育医療研究センター

「コロナ×こどもアンケート」第3回調査報告

31%のこどもが、学校に行きたくないことがあると回答
～こどもたちの気持ちに寄り添ってほしい～

国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵 2-10-1 理事長：五十嵐隆）の社会医学研究部・こころの診療部を中心としたグループ「コロナ×こども本部」は2020年9月～10月に実施した「コロナ×こどもアンケート」第3回調査の全体報告をまとめました。第3回調査では、学校や家庭における子どもの権利などにも着目して調査を行い、全国のこどもや保護者あわせて10,676名にご協力いただきました。

今回の調査では、31%のこどもが「学校に行きたくないことがある」と回答しました（いつも7%・たいてい5%・ときどき19%）。

また、コロナによる生活の変化について、家庭や学校での様子をこどもたちに尋ねたところ、「家での過ごし方を変える理由について、家族はわかりやすく教えてくれない」は22%（全くない10%・少しだけ12%）、「私が考えを話せるように、先生は質問したり確かめたりしてくれない」は21%でした（全くない10%・少しだけ12%）。新しい生活様式を取り入れていく中でも、こどもたちが意見を自由に表現したり、考えを伝えたりできるように、大人の工夫やサポートが必要です。

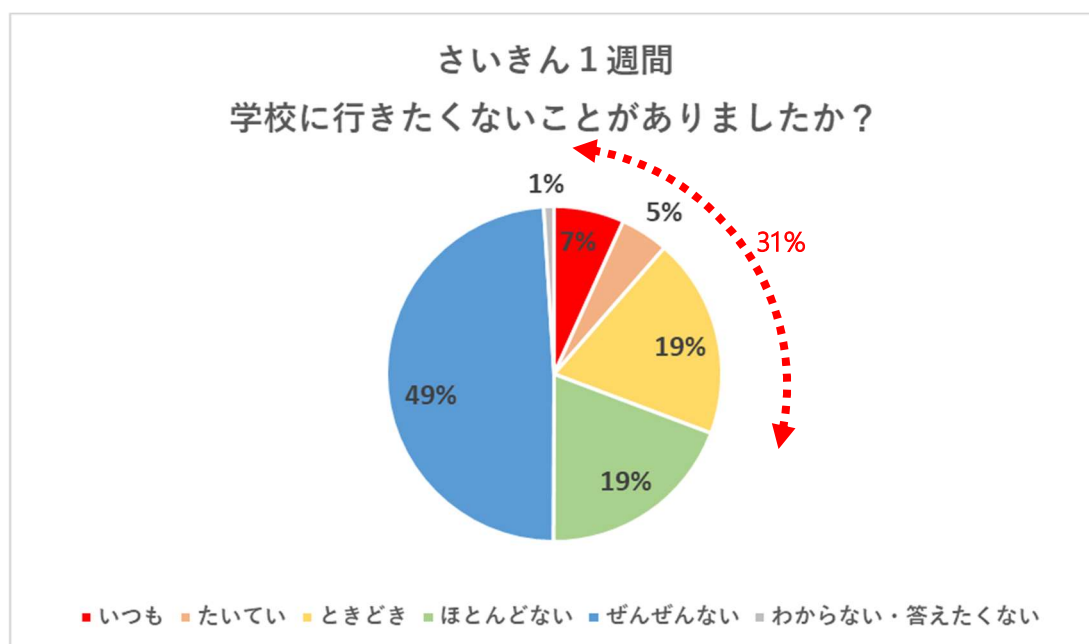
「コロナのことを考えると嫌になる」や「最近集中できない」といった、何らかのストレス反応を示すこどもは73%で、第1回・第2回調査から改善は見られませんでした。

ストレスの要因は時期や年齢、個々人によって様々です。こどもたちの健やかな成長を守るためにも、ひとりひとりの気持ちに寄り添うことが大切です。

なお、第3回調査の報告書全文は、国立成育医療研究センター「コロナ×こども本部」のページで公開しています。

(https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/survey.html#3tab)

【第3回調査報告書より抜粋（こども2,111名の回答）】



【プレスリリースのポイント】

- ・コロナ×こどもアンケート第3回調査には、全国のこども 2,111 名、保護者 8,565 名、計 10,676 名の方々にご協力いただきました。
- ・「最近 1 週間、学校に行きたくないことがありましたか？」という項目について、31% のこどもがあてはまると回答しました（「いつも」7%・「たいてい」5%・「ときどき」19%）。
- ・「あなたの家族は、（コロナに関連して）おうちでの過ごし方を変える理由を、わかりやすく教えてくださいか？」という項目について、22%のこどもがあてはまらないと回答しました（「全くない」10%・「少しだけ」12%）。
- ・「学校の先生は、（コロナによる生活の変化に関連した）考えを（あなたが）話せるように、質問したり確かめたりしてくれますか？」という項目について、21%のこどもがあてはまらないと回答しました（「全くない」10%・「少しだけ」12%）。
- ・何らかのストレス反応を呈しているこどもは 73%（第1回調査 75%、第2回調査 72%）で、前回から改善は見られませんでした。
- ・第4回調査「コロナ×こどもアンケートその4」を11月17日より実施中です。

【背景】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにより、こどもたちの生活も大きく変わりました。「コロナ×こどもアンケート」は、おとなと比べて声をあげることが難しいこどもたちが、いまどのような状況に置かれているのか、おとなたちはこどもたちのために何ができるのか、を明らかにし、現場に届けるとともに、社会に問いかけるための調査です。

第1回の調査では、主に緊急事態宣言中のこどもたちの生活や健康の様子、第2回の調査では、学校や保育園が再開されてからのこどもたちの様子や、新型コロナに関する意識（スティグマ：差別・偏見の対象となるような良くない印を、他者や社会が個人につけること）などが明らかになりました。今回の調査では、例年とは異なった夏季休暇を経て、新しい生活様式の中で迎える新学期では、こどもたちのところにどのような影響があるのかという点に着目して調査を行いました。

【今後の展望】

現在、COVID-19 の感染者は全国で再び増加傾向となっております。こどものストレス・生活習慣・コロナに関する意識（スティグマ）・保護者のメンタルヘルスなど様々な問題が長期化、表面化しつつあります。2020年11月17日より実施中の、第4回調査「コロナ×こどもアンケートその4」においても、引き続きこどもたちへの影響を調査しています。

また、2020年12月19日には、このアンケートをより役立つ調査にするために、こどもたちに質問を考えてもらう「こども会議」をオンラインで開催予定です。

今後も各調査結果や社会情勢などを踏まえて、繰り返し調査を実施していく予定です。重大な調査結果は速やかに公開し、現場でのこどもたちへのケアや施策提言に活かしていただけるよう努めます。

【参考資料】

<調査の特徴>

- ・新型コロナウイルス感染症流行期における、こどもたちと保護者のストレスや不安、生活環境の変化、それに伴う心身の健康状態の現状を明らかにし、問題の早期発見や予防・対策に役立てることを目的としています。
- ・こども自身の声を聞くことで、こどもたちが感じていること、こどもが抱える問題、その改善点を社会に発信していきます。また、こどもの心身の健康には、保護者の心身の健康が密接に関係しているため、こども・保護者双方の声を聞くことを重視して、調査を行っています。
- ・調査に協力して下さるお子さまや保護者の方ご自身が、自分や家族の心身の問題を早期発見することに繋げていただけるようにという点にも留意して調査を設計しています。
- ・調査は、1~2 カ月ごとに1年間程度繰り返し行い、その都度、調査結果を公開していくことを予定しています。第1回調査では、その調査結果の重大性を考慮し、一般向け、教育機関向け、保育機関向けの中間報告結果を、各対象者に向けた専門家からのアドバイスを含めた形で、公表しました。
- ・LINE 公式アカウント「コロナ×こども本部」では、調査協力依頼や結果のお知らせのほかに、こどもたちやそのご家族に今日から役立てていただける情報を、専門家がセレクトして随時発信しています。

<調査の方法>

- ・対象は、① 7~17 歳のこども、および、② 17 歳以下のこどもがいる保護者、です。
- ・当センターのホームページ内に本調査ホームページを開設し、調査目的・説明などを掲載するとともに質問項目のフォームを作成しています。回答は匿名で、説明・同意（代諾を含む）・回答はすべてオンライン上で行われます。
- ・調査への参加呼びかけは、若年層を中心に利用者割合が高い LINE や SNS (Facebook、Twitter) を積極的に活用して行っています。HP 記載の協力団体にも参加呼びかけにご協力いただきました。また、メディアにも紹介いただき、さまざまな媒体を通じて、多くの地域、多様な社会背景をもつ幅広い参加者から回答を得ることで、実態を正しく把握したいと考えています。調査の特性上、回答率は計算できません。
- ・第3回調査は、2020年9月1日~10月31日に実施しました。LINE「コロナ×こども本部」、Facebook（国立成育医療研究センター 広報アカウント）と twitter（国立成育医療研究センター 広報アカウント）のほか、協力団体、メディアを通して参加を呼びかけました。
- ・第3回の調査実施期間は、例年とは異なった夏季休暇を経て、新しい生活様式の中で迎える新学期が始まった時期です。この時期のこどもたちの生活習慣や学校、勉強について、急性ストレス症状、ストレス対処行動（コーピング）、こどもの権利、親子のかかわりやトラブル、保護者のこころの状態、こどもの意見を反映するにはどうすればよいのか、などを基本属性とあわせて聞きました。回答は、こどものみ、保護者のみ、その両方、から選べる形式にしました。
- ・第3回調査は、科学技術振興機構 新型コロナウイルス感染症関連国際緊急共同研究・調査支援プログラム J-RAPID「新型コロナ流行期におけるこどもの健康・生活に関する全国調査（コロナ×こどもアンケート）」（代表：森崎菜穂）として実施されました。

<本件に関する連絡先>

国立研究開発法人国立成育医療研究センター
広報企画室 村上・近藤

電話：03-3416-0181（代表）Email：koho@ncchd.go.jp